

### 第13回日本核医学会総会のご挨拶

私は昨年秋、皆様のご推薦により第13回日本核医学会総会の会長をつとめさせていただくことになりました。私はその任ではないことを万々承知しておりますが、もし私も核医学の発展に少しでもお役に立てるようであつたらと思つてこの大役をお引受けしたわけでありまふ。ついでにはできるだけよい具合に会を運営したいと思つてゐるわけでありまふが、力たらずで実際は皆様がお不満になる点のみと思ひます。何卒ご海容のうゑご後援願ひ上げたく存じまふ。

大会の会期は8月27日から29日でありまふが、これはたいへん暑い季節でありまして、ご参集の方々にはご迷惑かと存じまふ。しかし、丁度夏休み中ですので、比較的便利な場所、暑くない部屋を選び、少しでもご苦勞をへらすよう努力する所存です。

在来とちがつた点は会期を3日とし、しかも最初の日を半日としたこと、第一日を半日にいたしましたのは、関東または関西からいらっしゃる方に便利ではないかと思つたのと、一方演題数が多かったのと、しかもその発表時間を少しでも長くしたいと思つたからでありまふ。

シンポジウムその他についてはプログラム委員会のご援助を得ましたが、この委員会はいろいろな角度から考へて具合よくゆくように努力したつもりです。

この核医学会総会は日本の核医学の進歩をあらわすものでありまして、核医学の研究が年々盛んになつてくる状況はまことに意を強くするものがござひます。ご同慶のいたりでありまふ。この大会を成功させるために、いろいろ不満足な点が多いかと思ひますが、よろしくご後援下さいますよう切に願ひ申し上げる次第でござひます。

昭和48年6月

第13回日本核医学会総会会長

高 橋 信 次